

## 【認知症対応型共同生活介護用】

## 1. 評価報告概要表

作成日 平成21年11月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0570306381
法人名	社会医療法人興生会
事業所名	認知症対応型共同生活介護施設 グループホーム ふれあい荘
所在地	秋田県横手市杉沢字中杉沢400 (電話)0182(35)5155
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1番地の1
訪問調査日	平成21年11月5日

【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成13年1月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	5

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り	
	1 階建ての	1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,440 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		798 円	

## (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	2 名	要介護2		4 名		
要介護3	2 名	要介護4		1 名		
要介護5	0 名	要支援2		0 名		
年齢	平均	84 歳	最低	74 歳	最高	92 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	秋田厚生連 平鹿総合病院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム内は明るく、リビングには食堂の他に畳の間を設けた他、テレビやソファを適所に配置し、柔らかな雰囲気の中で利用者が自分の好みに合わせてゆっくり過ごせるよう配慮している。各居室には洗面所とベンチが設置され、使い慣れた調度品が持込まれている。寝具もベット、布団など個々の状況に合わせた居室づくりがなされている。隣接の老人保健施設との連携も良く、医療面、栄養面での協力体制も確立されている。横手市グループホームネットワークを主体に他のホームとの交流も積極的に行われ、相互勉強会を開催するなど、サービスの質の向上に努めている。利用者は昼夜24時間ホームで暮らし、今後も生活をしていくのだ、という認識を基に、職員は認知症のケアにこだわりながら利用者と家族に未永く安心してもらえるホームづくりを課題にしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での要改善事項は特に無し。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員が行い、その結果を人事異動による新人2名で新しい視点からまとめている。評価結果を基に職員によるディスカッションを行い、改善に向けての取り組みがなされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議には全職員が参加できるよう配慮し、会議録を回覧しながら情報の共有と改善に努めている。また市との関わりは月2回の介護相談員の訪問の他、地域のグループホーム連絡協議会(年4~5回)を通じて諸問題の解決と技術向上の連携を図っている。問題が生じた場合はいつでも市担当者に相談できる状況にある。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族へは随時電話連絡を行いながら、毎月1回の請求書送付時に、担当者からの文書による状況報告が行われている。重要事項説明に苦情相談担当者を明記し家族等へ説明している他、ご意見箱の設置、面会時の声かけ、利用者との会話の中から職員が感じたことを「なんでもファイル」に記載し、ホーム内で協議しながら対応に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会長が運営推進委員として会議に参加している。また、ホーム内行事への参加を呼びかけたり、自治会行事(夏祭り、イモ煮会など)へ積極的に参加している他、日々の散歩などを通じて地域との連携は良好に行われている。

## 2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1.理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔でゆったりと尊敬を持って傾聴する」をホームの理念としている。職員は常に理念を念頭におき、又町内会と良好な関係を保ちながら、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスの提供に努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念を職員室とキッチンの2か所に掲示している。又、管理日誌にも添付するなど日々の業務の中で常に意識付けがなされ、理念の共有と実践に取り組んでいる。		
<b>2.地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム周辺の散歩や市内のスーパーに出掛けしている他、町内会の行事に積極的に参加すると共に、ホームの各種行事への参加呼びかけを行うなど、日常的に声を掛け合っている。		
<b>3.理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今年の自己評価は全職員が行い、その結果を人事異動による新人2名で新しい視点からまとめている。また外部評価の結果についてもミーティングしながら意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議には職員全員が参加できるよう交互に出席し、その内容は正確に会議録を作成して回覧している。さらに会議録を家族にも送付するなど、会議を活かした取り組みがなされている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>月2回、横手市介護相談員の訪問がある(約30分から1時間程度)。また介護相談員日より等の送付も受けており、市とともにサービスの質の向上に取り組んでいる事が確認できた。</p>		
<b>4.理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時や必要に応じ随時の連絡がなされている。また年4～5回広報を発行し、行事や生活状況などホーム内の状況を知らせている。さらに、月1回担当者から近況報告が文書で請求書と共に報告されていることを確認できた。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等の意見、苦情等の受付については重要事項説明書に明記され、ホームには「ご意見箱」も設置されている。利用者の意見等の把握については、担当職員が話し合いの中から感じ取り「なんでもファイル」に記帳の上、職員で協議し解決に当たっている他、マニュアルも作成されている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>理事長の「ホームに新風を入れたい」との考えから6月に人事異動があった。利用者や職員共に距離感があると感じている部分もあるが、職員の努力により解決していこうとする様子が伺えた。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員が研修の情報や内容を把握でき、希望すれば積極的に参加できる体制にある。研修終了後は報告書を提出し、職員会議で伝達研修を行っている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>年5回の横手市グループホームネットワークの情報交換会に参加しながら、懇親会、相互勉強会を通じて交流の機会を設け、サービスの質の向上に努めている。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者が無理せず生活できるよう、本人・家族と相談しながらケアプランの作成に当たっている。心理的な不安を与えないよう、個々のペースに合わせた対応を心掛け、家族と相談しながら信頼関係を築く工夫と努力をしている。</p>		
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の得意分野や現在までの背景を把握して共に作業したり、話題づくりをするなど、職員も一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている様子が確認できた。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	一人ひとりの希望、思いを大切にし、介護者本位のケアにならないためには「声を掛け合う事が大切」ということを職員会議で結論づけ、職員全員で繰り返し確認することに努めている。		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	アセスメントに基づき利用者、家族の希望や思いを取り入れた計画を作成している。又、月1回のモニタリングや日々の生活状況、面会時の家族との会話を参考に、利用者の望んだ生活ができるよう職員全員で意見交換やカンファレンスを行っている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	ケース記録は内容によって青色（緊急）、ピンク（ヒヤリハット）、イエロー（ケアプランに関すること）の3色で記載され、常に介護計画を意識付けしたサービスが行われている。日々の行動観察や状況把握を十分行い、必要に応じた見直しを行っている。		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	本人・家族の状況に応じた対応を行っている。医療機関への送迎・受診、外食、買い物など必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高める支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医を受診できるようにしており、通院の支援も希望に応じて対応している。基本的には家族が通院に付き添うことになっているが、その際は「受診について」という文書に職員が状況を記載して家族に渡し、医師が記入した受診結果をホームへ届けてもらうなど、家族とホーム間で受診情報の共有がなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応については医療機関と連携しながら入院等につなげており、ホームとしての対応は現在行っていない。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	秘密の保持に関しては運営規定、利用約款に定めている。利用者の入浴やトイレ等の場面での声かけの配慮、各利用者の個人ファイルの氏名欄をローマ字表記にするなど、職員全員がプライバシー確保の必要性を認識し、取り組んでいる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝のラジオ体操を行っているが参加は自由であり、日課としては特に設けていない。起床・食事・散歩・買い物・排泄・入浴等の生活場面では、個々の生活リズムやペースに合わせた対応に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日替わりの調理担当者が、利用者との会話から食べたい物を聞き取って献立に取り入れている。利用者が自主的に食事の準備・後片付け等に関わり、出来ることに応じて役割分担が自然になされている。職員は一緒に食事を摂り、さりげなく食事を楽しめるような支援をしている。当日は大根の皮むきやニンジンの調理にいそむ利用者の姿が見られた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	健康状態を把握しながら、利用者一人ひとりの希望に沿った入浴支援が行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族からの聞き取りや普段の生活から、得意なことやできることを見つけ出し、利用者個々が役割を持てるようさりげなく支援している。例えば、手作りカレンダーを日々交換する方や掃除を日課とする方、食事の手伝いをする方等が見受けられた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に添って散歩、買物、ドライブ、遠足など、出来るだけ外出できるよう配慮していることがホールと廊下へ貼り出している写真などから確認できた。又、行きつけの美容院で話をするのを楽しみにしている方もいるとの話があった。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中、玄関に鍵がかけられることはなく、見守りと玄関のチャイムで利用者の動きを把握している。また、各居室には開設当初より鍵が取り付けられていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事務室には職員の緊急連絡網図を掲示し、年2回(内1回は夜勤対応)隣接する老人保健施設と合同の避難訓練を実施している他、今年度はスプリンクラーの設置を計画している。また町内会長には運営推進会議で協力を依頼している。先般の地震時に夜勤を担当した職員との対話から、実際に体験した怖さや対応の難しさを聞くことができた。ホームではこの体験を元に災害マニュアルを整備している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者毎に食事量をスタッフが確認し、記録している。また厨房の冷蔵庫には利用者個々の注意すべき点を貼り出し、職員の注意喚起と情報の共有を図っている。又、メニューについては隣接する老人保健施設の管理栄養士からカロリー計算やアドバイスを得ている。		
<b>2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が明るく、不快な音や臭いは無い。厨房と隣接するホールにはテーブルと椅子、テレビ、ソファ等が置かれている他、畳敷きの空間もあり、利用者が好きな所でゆっくりくつろげるよう配慮されている。また浴室やトイレも広く、ゆっくり利用できるよう設計されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には洗面台が設置されている。また、使い慣れたベッドや布団、写真や手芸品、加湿器など、本人と家族の希望する物が持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。		

は、重点項目。